

サイエンスコミュニケーションのための東海地区における 学会・地域・企業連携

Collaboration with Society, Region and Company for Science Classroom in Tokai region

○大脇 健史 (名城大理工)

°Takeshi Ohwaki (Meijo Univ.)

E-mail: ohwaki@meijo-u.ac.jp

1 はじめに : 応用物理学会東海支部では、リフレッシュ理科教室等、いろいろな理科啓発活動を積極的に推進している。科学館をはじめとした各地域の団体と密な連携を行い、また、それぞれの地域で、企業も協賛しながら理科教室にも参画している。リフレッシュ理科教室は今年で18回目であるが、支部の重要な活動のひとつとして、岡島茂樹先生(中部大学)、高井吉明先生(豊田高専)および歴代の東海支部長が中心となって、幹事が一致団結して推進してきている。これまで、企業の一員であった立場から、これらの東海地区における、応用物理学会・地域・企業等が連携したサイエンスコミュニケーションについて紹介する。

2 活動内容

2-1. リフレッシュ理科教室 : 毎年、支部長、岡島先生、高井先生とともに担当幹事{本年度主担 : 立岡浩一先生(静岡大学)}が中心となって企画立案し、数回のアイデア出し、議論および試作を行い、決定される。その後、企業からの部品協力も受けながら、毎年1,500以上の実験セットが製作される。会場は、浜松、岐阜、名古屋、山梨、三重において実施される。その間には、支部連携、ブロック連携および中山間地理科教室等が実施される。さらに、年毎に特徴ある企画と実施(愛知万博や上海万博での実施、モンゴル出張理科教室など)が行われる。各会場において、現地実行委員会が設けられ、実行委員、現地大学の教員やOB、科学館職員が協力して理科教室を実施する。現地実行委員会とともに科学館、教育委員会等が主催し、報道機関等が後援する。さらには、地域ごとにいくつかの企業が協賛し、理科教室を盛りあげる体制が確立している。

現地実行委員会では、毎年できる限り多くの生徒に参加してもらえるようにしているが、会場の広さに対し、応募が多数で、抽選によって選ばなければならない状況が続いている。企業の一員として参加していると、子供たちの楽しそうな製作と実験の様子は指導側も楽しめる状況であると感ぜられる。

2-2. おもしろ科学教室等 : おもしろ科学教室は、現在では10以上の学会、大学、高専および公共団体が協力し、共同開催している。毎年1月中旬に名古屋大学にて開催され、団体ごとに理科教室、展示または演示実験などを実施し、参加する小学生(と父兄)はいろいろ楽しむことができる。豊田高専サテライト会場も含め500名以上の参加があり、大きな賑わいを呈している。そのほか、教育委員会や大学等と連携し、多種多様な理科啓発活動が、企画・展開されている。

当日は、理科啓発活動の概要とともに、応用物理学会、他学会、地域および企業の連携の様子について紹介する。